

皆様

先ほど、東京で科学研究費に関する委員会開催され、そこでの文部科学省からの情報によると、現在までのところ文科省へのパブコメはまだ1000通程度だそうです。

現状では、文部科学省の予算全体の削減は避けられないところまできているようです。（ただし、科学研究補助金（いわゆる科研費）に関しては、増額の必要性を発言した仕分け人もいたそうです。）

対財務省としての方策はもはやパブリックコメントの総数以外になさそうです。（内容の細かなところは財務官僚も読む暇はないと思いますが、）是非読み切れないほどのパブコメを送りましょう。

パブコメの内容は、個人個人で考えて頂くしか有りませんが、来年の科学研究の予算を考えた時は以下の二つの戦略的観点が重要だと私は思います。

1. 科学研究に対する予算はコストパフォーマンスで査定できるような性質のものではなく、現状では増額こそ必要だが削減などもってのほかだと思ふ科学行政は、外交や防衛と同じように、諸外国とのバランスとの上に、国家的戦略に沿って遂行していくことが大切だと思ふ。

2. 文科省は数年単位で頻繁に提案される短期間のプロジェクト等を犠牲にしても、科学研究補助金を最優先施策として増額を図るよう努力すべきである。国民に対するアカウンタビリティを高める上からも、事業仕分けで指摘された諸施策の整理統合を、科学研究補助金を軸に勧めるべきである。たとえば、若手育成（大学院生のRAやポスドクの人件費）や最先端研究の設備更新・維持も、その科学研究補助金の中で現場の研究者が責任を持って効率的に経費の配分をするべきである。財務官僚は、ややもすると理科系の研究者には経費の効率的運用はできないと信じているために、むしろ現場の我々以上に経費を無駄に使ってしまっているというのが現状である。

我々に残された時間は少なく、緊急を要するお願いです。是非パブコメよろしくお願ひします。

白尾智明

